

科目名	ファーマドリル2			ナンバリング	PDR151	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	奈良武司	担当教員	林 正彦、松本 司、山浦 政則、梅村 一之、金 容必、菊池 雄士、片桐 拓也、佐藤 龍昌、蝦名 敬一、山崎 直毅、村田 亮、村田 和子、堀 一之、福地 祐司、角田 大、江藤 忠洋、野原 幸男、坂本 直道、田島 裕久				

授業の概要	1年次から3年次前期に学んだ基礎科目について、演習を通してより理解を深め、理解を定着させる。このことにより、「薬剤師として求められる問題解決能力」の基盤を固め、より強固なものにする。 開講時期:水曜日3限、および4/11から5/31の木曜日と金曜日の3限(掲示板等で確認すること)						
到達目標	1年次～3年次前期に学んだ基礎科目に関し、必要事項を覚えるだけでなく、基礎知識を組み合わせ、ある程度応用問題が解けるようにする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	単元ごとキーワードを理解しつながりを考える。事前学習に努め、理解が不十分な領域を自己学習しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1年次～3年次前期に学んだ基礎科目に関し、必要事項を理解し、CBTレベルの問題を解くことができる。	1年次～3年次前期に学んだ基礎科目に関し、必要事項を覚えるだけでなく、基礎知識を組み合わせ、ある程度応用問題を解くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○			100%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	到達目標に達しない場合は、再学修を指示し、後日再評価する。
---------------	-------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション(奈良武司)	各回の講義のテーマ、ならびに各講義の進め方についての説明を行う。	4/10(水)
	第2回	化学演習(山浦政則、梅村一之、山崎直毅)	酸・塩基に関する解説と演習を行う(山浦)。無機薬化学の演習問題を解き、問題の解説を行なう(山崎)。	4/11、4/17(水) 山浦 4/12(木) 梅村 4/18(木) 山崎
	第3回	物理学演習(坂本直道)	熱分析法の種類, 原理および概要について解説する。	4/19(金)
	第4回	有機化学演習1(山浦政則)	求核置換・脱離反応とカルボニル化合物に関する解説と演習を行う。	4/24(水)
	第5回	物理化学演習(角田 大)	物理化学領域の演習問題を解き、その解説を行う	4/25(木)、5/9(木)
	第6回	薬品分析学演習(田島裕久)	酸塩基平衡に関する濃度及びpH理論値に関する演習問題を解き、その解説を行う。	4/26(金)
	第7回	生薬学演習(松本 司、堀 一之)	生薬・漢方薬に関する演習問題を解き、問題の解説を行う(松本)。重要生薬の理解すべきポイントについて、演習を交え解説する(堀)。	5/8(水) 堀 5/17(金)、5/24(金) 松本
	第8回	化学療法学演習(金 容必、福地祐司)	2年次後期に学んだ化学療法学1の総復習を行う。さらに確認問題を配布するので回答して知識の定着を図る(金)。	5/10(金) 福地 5/16(木)、5/23(木) 金
	第9回	生物学演習(奈良武司)	細胞生物学の基本である複製・転写・翻訳に関する演習問題を解き、問題の解説を行なう。	5/15(水)
	第10回	免疫学演習(菊池 雄士)	免疫学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	5/22(水)、6/12(水)
	第11回	生化学演習(奈良武司)	生化学の基本である代謝に関する演習問題を解き、問題の解説を行なう。	6/19(水)、6/26(水)
	第12回	機能形態学演習(江藤忠洋)	機能形態学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	7/3(水)、7/10(水)
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	実施しない。		

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第16回	薬局方演習(村田 亮)	薬局方に収載されている製剤とその試験法について演習問題を解き、問題の解説を行う。	9/18(水)
	第17回	病態・臨床検査学演習(野原幸男)	病態・臨床検査学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	9/25(水)
	第18回	有機化学演習2(梅村一之)	有機化学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	10/2(水)
	第19回	細胞分子生物学演習(片桐拓也)	演習問題を解くことで3年生前期の「細胞分子生物学」を復習する。	10/16(水)
	第20回	臨床免疫学演習(村田和子)	演習問題を解くことで3年生前期の「臨床免疫学」を復習する。	10/23(水)
	第21回	薬理学演習(林 正彦)	薬理学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	10/30(水)、11/20(水)、11/27(水)
	第22回	病態・薬物治療学演習(林 正彦、佐藤龍昌)	病態・薬物治療学薬理学領域の演習問題を解き、その解説を行う。	12/4(水) 佐藤龍 12/11(水) 林
	第23回	衛生化学演習(蝦名敬一)	これまでに学んだ衛生化学の復習として演習問題を解き、問題の解説を行なう。	12/18(水)
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験	実施しない。		
授業の進め方		各教員の指示による。		
授業外学習の指示		【予習範囲(60分)】シラバスを読んでくる。1年次～3年次前期の授業範囲の復習。 【復習範囲(30分)】授業で理解できなかった箇所、小テストで間違った箇所をチェックする。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	各教員の指示による。
参考書	各教員の指示による。
参考URLなど	各教員の指示による。
その他	薬剤師に求められる基本的な資質:(基礎的な科学力)(自己研鑽) 資料はmanab@IMU等で配布する。

ループリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	事前学習	事前課題に対する主体的かつ十分な自己学習ができ、小つとおよび期末試験への取組に活用されている。	事前課題に対する自己学習ができ、課題への取組に活用されている。	事前課題に対する自己学習ができておらず、問題解決への活用も不十分である。
2	提出課題	適切な振り返りシートを作成し、与えられた課題と共に期日までに提出することができている。	与えられた課題を期日までに提出することができている。	与えられた課題を期日までに提出することができていない。
3				
4				
5				
6				
7				